廣讃寺ジャーナル

第44号
（発行所）
真宗大谷派
松岡山 廣讃寺
中村区城屋敷町3-30
TEL(052)411-5301
FAX(052)411-5341
携帯 090-1568-4623
E-mail:kousan-temple@trad.ocn.ne.jp

第二十一回廣讃寺帰敬式を受けて

秋田 宗和

九月二十三日、お彼岸に廣讃寺帰敬（ききょう）式で法名を授かった。

「釈宗到」

今日から仏門の弟子の一員に加えていただけた。南無阿弥陀仏を唱え、阿弥陀如来様に手を合わせ、親鸞聖人のお導きを得ながら新しい日々を過ごしていく。これまでは仕事の事、家族の事等世俗の子であり、仏事に思いを巡らす事はほとんど無かった。

当日は式に先立ち、廣瀬純史師の法話を拝聴した。お題は「自力」と「他力」

真宗精神の他力について、日常の具体的な行いや心模様を例にして、大変分かりやすいお話であった。

式はヤッパリ緊張した。透き通る水晶のようなすがすがしい歌声の真宗宗歌斉唱、厳かな三帰依文、そして剃刀の儀、法名披露と続くにつれて気持ちが高揚していく。お礼の言葉、正信偈唱和、恩徳讃斉唱で式が終わり記念撮影が終わり、ほっとする。

帰宅して式を思い返してみる。そのうちにいつか学生時代に聞いた論語の一説を思い出し、思わず口をついて出る。

「六十にして耳従い、七十にして心の欲するところに従いて矩をこえず」

「六十になって、人の言葉が素直に聞かれ、七十になると思うままに振舞って、それでも道を外れないようになった」と言う事だったと思う。

親鸞聖人から今日まで、浄土真宗七百五十年と言うはるか時空を超える伝統を確かなよりどころとし、ご住職から有り難い法名を頂き、御仏の弟子となれた今に感謝するとともに、南無阿弥陀仏の六字の名号を唱え、これからも健やかな日々を送らせて頂きたいものである。

私たちのためにお骨折り頂いた多くの方々に深く感謝申し上げます。

合掌

阿弥陀経にでてくる
高弟子第九番「阿難陀（アナンダ）」

伊藤和美

この阿難陀は、人々に阿難と呼ばれていた。お釈迦様の説法を一番多く聞かれた人で多聞第一と呼ぶ人多し。だが阿難は最後まで悟れなかった。これについては、いろいろな説があります。

阿難は悟れなかったのでなく、悟らなかったと言う人多し。阿難は自から願って、お釈迦様の従者になり、いつもお釈迦様のおそばに仕えお世話をした。もし悟れば従者からはずれる。そのために悟らなかった。

お釈迦様がクシナガラで涅槃に入られた時もおそばにつかえておりました。

お釈迦様が涅槃に入られた後、教団の混乱を心配して説教をお経に編集された。編集責任者は三番弟子の摩訶迦葉が担当したが、阿難は悟ってないと言うことで参加できなかった。

二回目の編集では阿難も呼ばれ、そのため多くのお経が編集された。阿難はお釈迦様のいとこに当たりました。

20組行事に参加して

釈　綽智

残暑の中、九月十四日松原町の誠願寺であった。講師生田先生の四年間にわたる連続講座「親鸞をもっと身近に」の最後の日。今日は「聖人は何を遺（のこ）したか」を中心に話された。

一、その場に身（自分）を置くことができるか。聖人の遺言の「自分が死んだら賀茂川に捨て、魚にくわせよ」の解釈。実際は火葬され遺骨も残されているが、二つ程

の意味がある由。

（一）十悪五逆の非道を尽くす我ら凡夫と共に生き、共に死にたいと思われた。

（二）肉体と心は別だ。死んだら肉体は皆一緒に腐り無くなる。しかし心・信心はいつまでも残る。貴族出身とはいえ幼少時のつらい体験と法然門下となって修行した経験に裏打ちされたから出た言葉で、聖人の本心がよく伝わる。

二、聞法すればするほど聖人の精力的活動の広さ、偉大さに感服。

聖人は寺を一つも造らずが定説だが、近ごろ、京都の仏光寺と興正寺が寺伝にありと主張している由。私は多くの寺を参拝したが聖人の創建という寺に合ったことはない。しかし著作物が当時の僧侶の中で飛び抜けて多い。主著の教行信証は六十代に、恩徳讃や浄土・高僧和讃は七十代、正像末和讃は実に八十五歳の著作である。平均年齢四十歳ぐらいの鎌倉時代に、どうしてこうも長生きされたか不思議でならない。長生きされた理由を聞いたこともない。まったく稀有なこととなっている。よく歩き働き声出して三部経など読み信心為本の教義を喜び広める努力と工夫をこらした著作活動がそうさせたのか、衣食に関する記録がないので推測するだけである。そこが知りたい！

三、往生と成仏は違うよ。往生は煩悩をもってもできるがまず往生で仏の国に生まれること、それから成仏へと進む。浄土教では死んで阿弥陀仏の極楽浄土へ生まれることが往生とされた。しかし、浄土真宗では聖人は阿弥陀仏の本願を信心した、信心を獲得した時にすでに浄土に救われていると説く。生きている時に救われるという。それは信心と念仏だけでよいと、二年間六カ寺で聞法して、やっと真宗門徒の一員としてスタートラインにつけた喜びでいっぱいです。20組の皆さんや廣讃寺同朋会の皆さんのお蔭です。ありがとうございます。これからもご一緒によろしくお願い申し上げます。

【十一月行事予定】

二日（水）・午後二時　常任委員会

十二日（土）・午後七時半（役員は七時）同朋会例会

十九日（土）・午後二時　学習会

二十四日（木）　親鸞聖人七百五十回御正当報恩講
団体参拝　日帰り旅行

二十八日（月）・午前九時　おみがき・二十八日講・女人講

秋彼岸　帰敬式

宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要

十二月二日（金）・午前九時　御遠忌準備

十二月三日（土）・午前十時　お勤め

・午前十時半　説教
説教師　名古屋教務所駐在
竹原了珠　師

・午後一時前　子供の献花式

・午後一時　お勤め

・午後一時四十分　御伝鈔拝読

・午後二時半　演芸会
（詩吟・演奏・芝居など）

十二月四日（日）・午前九時半　始経
住職継承奉告法要

・午前十一時　説教

・午後一時　始経
宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要
（楽・行道散華・稚児あり）

・午後二時五十分　説教
説教師　大垣教区正休寺
勅使英照　師

・午後四時頃より片付け